

# 所長あいさつ

和歌山県教育センター学びの丘ウェブページにアクセスいただきありがとうございます。

現代は先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性（Volatility）、不確実性（Uncertainty）、複雑性（Complexity）、曖昧性（Ambiguity）を表す4つの英単語の頭文字を取って「VUCA」の時代と言われています。このように社会が加速度的に変化する中で、昨年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、教育基本法を普遍的な使命としつつ、変化を続ける新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基に、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つを、2040年以降の社会を見据えた教育政策のコンセプトとして掲げています。私たち教育関係者には、その中心となる「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を更に進化させ、教育の質を向上させることが求められているところです。



当センターでは、こうした社会の変化を前向きに捉え、学び続ける職員集団であると同時に、多様な関係者が対話を重ね、複雑な現実を見つめて未来のビジョンを共有する「学習する組織」でありたいと考えています。

学びの丘事業は、新しい時代の教育を実現するため、研修と研究開発の2つの柱を基に展開しています。研修事業においては、教職員に求められる資質・能力に関する指標を踏まえ、教職経験年数に対応した研修、専門性の向上を目指す研修等、各キャリア段階に応じた実践的指導力の向上を目指す研修を一体的、系統的に実施するとともに、新たな時代の要請に応じて研究していきます。研究開発事業においては、和歌山県の教育課題の解決を目指し、市町村教育委員会や学校等と連携した研究に取り組んでいます。また、県内外から教育に関する様々な情報を収集し、カリキュラムセンターとしての機能を充実させ、積極的に県内に発信し、還元しています。

当センターは、未来を拓く子どもたちを育むために、学び続ける教職員を支え、「和歌山の教育」を元気にします。教職員はもとより、多くの皆様に当センターにお越しいただき、施設や教育資源を十分に活用していただくことを心から願っております。本年もどうぞよろしく願いいたします。

令和6年4月

和歌山県教育センター学びの丘  
所長 福田 孝